

合わせ、特別支援学級及び協力学級（普通学級）での指導を行っている。また、普通学級で特別支援の必要な児童への指導は、普通学級担任、特別支援学級担任、ティーム・ティーチング教員など全校的な体制で行っている。

2. 報告事項

(1) 工事発注後の進捗状況について

- ・発注件数 21件(14件完了)
- ・設計額 3億5,376万6千円
- ・請負額 3億3,917万1千円

(2) 転作状況と小麦の出荷状況(8月18日現在)について

- 転作状況
- ・対象水田認定面積 4,327・99畝
- ・水田作付面積 3,512・67畝

(加工用米69・48畝を含む)
・水田転作面積 799・64畝
○小麦出荷状況

- ・刈取面積
- 秋小麦 8,298・277
- 春小麦 4,904畝

- ・受入状況
- 秋小麦 1,164ト
- 春小麦 203ト

(J・A・ピンネ全体の数値で全量1等麦を目指して調整中)

(3) 農作物の生育状況(8月15日現在)について

水稲は、8月上旬に出穂が揃い初中期の登熟期間は気温が若干低く推移したが、登熟は概ね良好。小豆・大豆は、平年並みで特に問題は無い。玉ねぎは、早生種が8月12日から収穫が始まり収量は並からやや良。

(4) 町営牧場の運営状況について

- ・牧場名 学園牧場
- ・面積 56・36畝
- ・放牧状況 8月20日現在で58頭(前年実績64頭)

(5) ヒグマの出没状況について

ヒグマの出没情報は、平成19年度6件、今年8月20日まで1件。出没情報があった場合の対応は、防災無線で注意放送、看板の設置、ハンターに警戒を要請。今後はクマの捕獲わなを2台購入し出没情報があった場所に設置予定。

総務民生常任委員会 政務調査

(8月4日開催)

視察地 安平町役場
調査事項 地域公共交通としての町内循環バス事業について

本町の地域公共交通(民間路線バス)が危機に瀕している。住民生活の足をいかに確保するか、利便性の高い持続可能な公共交通の展開をどう図るか。無料の「町内循環バス」を導入している胆振管内安平町に出向き、委員会の政務調査を実施した。

安平町は平成18年3月、早来町と追分町が合併して誕生した町で人口9,131人、高齢化率26・5%(平成17年国勢調査)。

旧町ではそれぞれ老人等、交通弱者に対して利便性の高い福祉バスを運行してきたが、合併により町が広域化し庁舎を含む公共施設も分散、更に高齢化が予想されることから、合併特例債を活用した交流促進事業の第1弾として「無料循環バス」を平成19年11月より運行を開始した。主要

公共施設の相互利用、人的交流など住民の早期融合を図ることが大きな目的でもあった。多くの住民利用に因應するため見直しを重ね、本年7月より現在の形式で運行。

- ・運行形態 業務委託
- ・契約期間 平成19年4月1日から3年間
- ・委託料(年間) 1,432万6,200円

路線数 3路線(追分地区・早来地区・町内循環)を町有バス3台で運行

- ・運行回数 追分地区4回、早来地区3回、町内循環3回(各8時30分〜17時30分の中で運行)
- ・運行方式 停留所方式
- ・年間利用者数(平成19年度) 2万444人

今後の課題 隣接する千歳や苫小牧方面への接続の充実。町内にあっても民間バスとの役割分担、スクールバスとの連携、バス更新時に向けた有料化の検討。

安定的に住民の足を確保することは喫緊の課題だけに、各委員から活発な質問が出され、幾つかのアイデアとヒントを得ることができ充実した政務調査であった。

本町は今年度、町地域公共交通活性化協議会が設置され、地域公共交通総合連携計画の策定に向けた調査が行われているが、必要としている住民の声を確実に受け止め、公共交通の構築を望む。

経済文教常任委員会 政務調査

(7月29日開催)

視察地 愛別町きのこ生産組合
調査事項 愛別町きのこ生産振興の経過について

きのこ類は、昭和47年から生産され「えのき茸」が草分けで、以来水稲の補完作物として定着し年々販売額も上昇してきた。えのき茸が導入されたのは、昭和45年から始まった米の生産調整がきっかけで、昭和49年から第二次農業構造改善事業や林業構造改善事業など、全国で初めて「きのこ」を補助事業に取り入れて推進してきた。

現在はきのこの中でも、えのき茸の生産は北海道で80%、なめこ茸は60%を占めて